

# 探訪 新ライフスタイル

デンマークの首都コペンハーゲンには約63万人の人口を抱える。チボリ公園が隣接する中央駅から、港のあるニューハウンまで1・1キロの歩行者専用道路を「ストロイエ」と呼ぶ。ここが北欧一の繁華街だ。ストロイエとはデンマーク語で「ぶらぶら歩く」を意味し、4つの大通りと3

## ライフスタイル

### 北欧流 歩いて楽しい街づくり



人を優先する道を中心に街を作るニューヨーク

## 歩道が生む生活感、居心地快適

一つの広場などで構成されるストラン、カフェなど約2000店が軒を連ねる。日が広がる。クラシックな外観で品格

が訪れ、幸せな日常の風景だった。ただ現地を訪れると市街地の道路幅が広すぎて北欧のような界隈性が醸

最近ではアメリカの大都市でもウォークアブルな街づくりにシフトしてきた。代表例がニューヨークで2009年に誕生した「ハイライ

高架鉄道跡地を「アーバンデザイン」「ランドスケープ」「エコロジー」の3要素で再開発し、パブリックアートや植物に囲まれた2階の空中庭園ができた。散歩、ランニング、ヨガ、野外学習やライブが楽しめるニューヨークの人気スポットの一つとなった。今ではマンハッタン中心部でも車線を狭め、自転車専用道路やカフェやポケットパークをつくる取り組みが広がっている。

日本全国で行われてきた街づくりは、車社会に対応した大きな車線道路を配置するのが基本だった。こうしたやり方を見直し、中心市街地では人が行き交う歩道を充実し、ウォークアブルな空間作りができないものだろうか。街を歩くと、街でくつろぐことは地域活性化に直結し、生活者の豊かなライフスタイルを形成する栄養になると信じている。

を備えた百貨店だけでなく、広場や博物館、美術館などの公共施設も街にうまく溶け込んで、街歩きしたくなる「居心地のよい大きなサロン(居間)」。のようでもある。ここに地域特有の個店や看板、パフォーマーなどが加わり、個性的でありながら生活感あふれる界隈(かいわい)性が生まれる。

先日、東日本の県庁所在地で閉店した百貨店の再生について相談があった。建物は業態劣化が閉店の主因

(商)創造研究所代表 松本大地